

2 家庭・地域、関係機関及び校種間の連携

人権教育を効果的に推進するためには、校種間の連携をより一層進めるとともに、家庭・地域や関係機関等との連携を進めることが求められます。

本節では、指導の在り方編第Ⅱ章第1節「3. 家庭・地域、関係機関との連携及び校種間の連携」に示された内容のうち、「家庭・地域との連携」「関係機関との連携・協力」「校種間の協力と連携」等を踏まえた、以下の事例を掲載しています。

- 事例4 人とのつながりを広げよう
- 事例5 なかよし たんけんたい
- 事例6 まちを元気にするために
自分たちにできることを考えよう
- 事例7 人生の先輩から生き方を学ぼう



人とのつながりを広げよう

事例4

校種等 幼稚園・保育所等

1 題材設定の理由

幼児の自発的な活動としての遊びは、心身の調和のとれた発達の基礎を培う重要な学習である。幼児期における教育は、このことを考慮して遊びを通しての指導を中心に行うことが重要である。

幼児にとっては、生活の場自体が学びの場であり、人権感覚の芽生えの場である。幼児は、友だちや保育者と触れ合うことで、自分の感情や意思を表現すること、自己の存在感、他の人々と共に活動することの大切さ、楽しさなどを味わう。また、幼児同士が自己表現することを通して、理解し合うことの大切さ、共感、思いやりなどを学んでいく。

本題材は、田園地帯が広がる地域性を活かし、農家の方・小学生・幼稚園児が米作りを通して交流する実践事例である。幼稚園教育要領に示されている「人とのかかわりに関する領域『人間関係』」、「身近な環境とのかかわりに関する領域『環境』」を中心とした活動となる。

人とのかかわりを深めることは、自尊感情の育成と規範意識の芽生えを培うことにつながる。また、水と緑に恵まれた自然を大切にし、ふるさとを大好きになって欲しいという願いを込めて、題材を設定した。

子どもの発達を長期的な視点でとらえ、子どもたちが自らの課題を克服し、より豊かな人権感覚を身に付けていく上で、幼・保、小連携を推進していくことが必要であると考えます。

2 題材のねらい

○小学生との交流を通して、支え合うことの大切さに気付かせ、人とかわる力を養う。

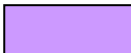
◆身近な人に親しみ、愛情や信頼感をもつことにより自己肯定感を高める。


〈社会的共感能力の基礎づくり〉

3 実践上の留意点

- 米作りにかかわる人の思いに触れ、収穫の喜びや感謝の気持ちをもたせる。
- 人権教育の一環として、交流活動の様子を家庭や地域に知らせ、人権教育への理解を図る。

4 学習の流れ

※  → 「展開例」で示した学習

月	幼児の活動	指導上の留意点	
4	<ul style="list-style-type: none"> ・自由遊び（全園児・休み時間来園する小学生） ・小学校探検（年中・年長児） 	<p>○小学生と一緒に楽しく遊ぶ体験を通して、小学校生活に対する期待感をふくらませることができるようになる。</p> 	
5	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校庭探検（年少児） ・からいも畑うね作り（全園児・5年生） ・町内小学校の運動会参加（年長児・5年生） 		
6	<ul style="list-style-type: none"> ・田んぼ泥んこ遊び（年長児・5年生） ・小学校探検（全園児） ・田植え体験（年長児・5年生） 		
7	<ul style="list-style-type: none"> ・笹かざり作り（全園児・来園小学生） ・小学生とプール遊び（年長児・6年生） ・高校生（職業体験）との交流（全園児） 		
8	<ul style="list-style-type: none"> ・稲の生長見学（年長児・5年生） 		
9	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生（職業体験）との交流（全園児） ・各小学校の運動会見学（年長児・教師） 		
10	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園運動会（全園児・3年生） ・サッカー、運動会ごっこ（全園児・1年生） 		
11	<ul style="list-style-type: none"> ・稲刈り（年長児・5年生） ・芋掘り（全園児・5年生） ・就学時健康診断（年長児・入学先学校） ・小学校の授業見学（年長児） ・「お店屋さんごっこ」に招待（年長児・1年生） ・避難訓練（全園児・全校児童） 		<p>○幼稚園の生活との違いに気付かせ、小学校の生活（授業時間と休み時間など）に興味や関心をもたせる。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校学習発表会（年長児参加） ・クリスマスツリーの飾り付け（年長児・来園小学生） 		<p>○小学生には場に応じたかわり方（よいことや悪いことに気付かせる、社会のきまりを守ることのお手本を示すことなど）で、園児との交流活動を進めるよう指導する。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・伝承遊びの交流（1年生） 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の授業見学（年長児） ・もうすぐ1年生（年長児・5年生） ・もうすぐ年中・年長組（年中・年長児、4・5年生） 		
<ul style="list-style-type: none"> ・卒業祝いプレゼント（年少・年中児、6年生） 			
12	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校学習発表会（年長児参加） ・クリスマスツリーの飾り付け（年長児・来園小学生） 		
1	<ul style="list-style-type: none"> ・伝承遊びの交流（1年生） 		
2	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の授業見学（年長児） ・もうすぐ1年生（年長児・5年生） ・もうすぐ年中・年長組（年中・年長児、4・5年生） 		
3	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業の集い（年長児・5年生） ・卒業祝いプレゼント（年少・年中児、6年生） 		


5 準備

- 年間活動計画、教育・保育内容、指導方法などを互いに理解するための小学校との打合せ
- 田んぼ提供依頼や打合せ（田んぼの場所、広さ、園児・児童の人数の確認、田植え→稲刈り→餅つきまでの活動内容の確認）
- 安全対策（移動経路・鎌の使用・服装）

6 展開例

ねらい

- 5年生や農家の人との農業体験を通して、身のまわりの人に対する信頼感や感謝の気持ち、人との触れ合いを大切にする気持ちをもつ。
- 植物を育てる活動を通して、命の不思議さや個性に気付く。
- ◆自分の気持ちを伝え、相手の思いも受け入れ、共に活動する喜びを味わう。
〈社会的共感能力の基礎づくり〉

幼児の活動	○指導者の支援及び留意点 ◇評価	備考
1 小学校に出かけ、5年生や先生とあいさつを交わす。 2 現地まで小学生と道路を歩く。	○教師が元気な明るい声であいさつし、お互いがあいさつできるような雰囲気づくりをする。 ○小学生のよさを伝えながら、安心して交流できるよう言葉かけをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・服装 ・救急用品 ・鎌 ・軍手 ・横断旗 ・水筒
3 農家の人から、どんな気持ちで稲を育てるのか、米作りの話を聞く。	○稲のようすや秋の果物の実りなど周りの景色の変化に気付かせ、小学生との会話を楽しみながら歩く。 ◇小学生と仲良くなり、楽しく会話することができる。 ○農家の人から、米作りの話を聞く。（どんな気持ちで育てているかなどの願い、稲の刈り方 など）	
	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 今日刈るのはもち米ですが、お米の話を少しします。米という字は<u>八十八</u>と書きます。米ができるまでには田植え、草取り稲刈りなど約八十八回も人の手がかかっている大変な作業です。だから食べ物を大切にしてください。 </div>	

4 5年生や農家の人に教えてもらいながら稲刈りをする。

(1) 稲を刈る音や感触を楽しむ。



5年生が刈った稲を手
「集めるところに置いてく
るね。」
「大丈夫？気をつけてね。」

(2) 刈った稲を集める。



刈り取った稲の先には米が入っているから、稲穂一本も無駄にしないでください。

5 機械による脱穀の様子を見る。

6 落ち穂拾いをする。

○鎌の安全な使い方について指導する。
◇小学生と一緒に楽しく会話をしたり、稲刈りをしたりすることができる。

○機械に興味をもたせるとともに、危険性を伝え、近づかないようにする。
○田んぼに稲穂が残っていないか声かけをする。
○餅つきへの意欲や期待を高めるような声かけをする。

一粒、一粒が、おいしいお餅になるよ。農家の方と一緒に餅つきをしたいね。今度は、餅のつき方を教えていただきますよ。

7 5年生の感謝のことは聞き、一緒にお礼を言う。

○5年生の気持ちを考え、感謝の気持ちを伝えることができるよう支援する。

私は初めて稲刈りをしました。初めのうちはドキドキしましたが、だんだん慣れて楽しくなりました。幼稚園の人はできるか心配したけど、上手だったのでびっくりしました。ありがとうございました。

—小学生のお礼の言葉—

8 手をつないで園まで帰る。

9 5年生が、交通量の多い道路で私たちを見守り、励ましてくれたことに感謝して、お礼を言う。

◇初めて稲刈りをした喜びや感謝の気持ちを自分なりに表現することができる。

○次は、芋掘りを一緒にすることを伝える。

7 資料

〈交流後、5年生から届いた手紙〉

A先生へ

ようち園では、お世話になりました。

卒園式はとても悲しかったけど、小学校は楽しいです。

5年生になって楽しいことは、きく組さんといろいろなことができたことです。

来年は、今のきく組さんが、1年生になるので、しっかりお世話をしていきます。だから、安心してB小学校におくって下さい。

ありがとうございました。

〈交流後のC小学校校長の話〉

【取組の成果】

○伝統的に連携がなされていることにより、職員間の話し合いができた。

○連携を保護者や地域が理解し、支援している。

○共通のテーマ『環境』が存在している。

などにより、長い間、幼・保、小連携ができていているといえる。このことがC小学校の子どもの成長につながっている。

【取組の課題】

○施設の共有化（図書室・理科室・家庭科室・体育館の幼稚園への開放）

○人材の共有化（互いの職員の交流・保護者の交流）

などを進めていく。

なかよし たんけんたい

事例5

校種等 小学校

1 題材設定の理由

全国的にも、小1プロブレムなど、小学校生活への適応が難しい児童の実態があることが教育上の重要な課題となっている。子どもたちの姿からも、他の児童や教師とコミュニケーションをとることを苦手としたり、人間関係をつくっていくことに困惑したりする様子も見られる。

そこで、学びや発達の連続性を大切にし、入学してくる前に、幼稚園・保育所等への訪問や家庭訪問を実施し、園・所や家庭での生活の様子や家族の思いを把握することで、入学後の学校生活に活かす取組が必要である。

また、環境の変化によって児童が困ることのないよう、幼稚園・保育所等と日常的に連携を図るための体制づくりに努めることが大切である。

このことを踏まえ、幼児期から小学校までの生育・成長過程を通して、人間関係づくりを重視した教育を実現するために、本題材を設定した。

2 題材のねらい






- 家族や自分の生活を振り返り、自分の成長は多くの人への支えによるものということが分かり、感謝の気持ちをもつ。
- 植物の栽培を通して、生命の不思議さや個性に気づき、生命を大切にすることができるようになる。
- ◆園児との交流を通して、身近な人々とかかわることの楽しさが分かり、進んで交流することができる。〈価値・態度的側面〉

3 実践上の留意点

- 幼稚園・保育所等と小学校の職員同士が、子ども一人一人の実態を把握し、指導の在り方等について情報交換を行う。
- 家族のことを調べる活動を通して、家族の仕事を知る機会をもたせ、家族への感謝の気持ちを育てる。
- 植物の栽培を通して、自然や生き物に対する親しみを持ち、植物の生命力や不思議さなどに気付かせ、命を大切にすることを育てる。
- 園児と小学生のペアによる活動を通して、人とかかわり合いや仲間とかかわりを感じることをできるようになる。

4 学習の流れ

※ →「展開例」で示した学習

	学習内容	指導上の留意点
1 年 生	<p>『あさがお交流』（生活）</p> <p>1 年間計画作成・事前打合せ（4月）</p> <p>2 あさがおの種まき （4月下旬～5月上旬）</p> <p>3 あさがおの苗を持って、幼稚園・保育所等へ訪問（5月下旬～） 資料：あさがおこうりゅうカード</p>  <p style="text-align: center;">幼児と一緒に苗を 植えている児童</p> <p>4 あさがおの花を使った遊びの招待 （6月下旬～）</p> <p>5 あさがおの種とり（9月）</p>	<p>○交流の意味をつかませる。</p> <p>○園児に応じたかかわり方を工夫し活動することができるよう、事前に指導する。</p> <p style="text-align: center;">（交流後、園児からのプレゼント）</p> 
	<p>『プール交流』（体育科との関連）</p> <p>1 小学校のプールで水遊び （6月～7月）</p>	<p>○児童と園児のペアを作り、プールで水遊びを楽しむ活動を通して、交流を深める。</p>
	  	
	<p>2 お手紙をかこう（国語科との関連） ～年長さんへの手紙～（7月）</p>	<p>○手紙を書くことで、交流してくれた年長児への感謝の気持ちをもつことができるようにする。</p>
	<p>『秋のフェスティバル』（生活）</p> <p>1 招待状を送ろう（11月）</p> <p>2 フェスティバル（展開例参照）</p> <p>3 お礼の手紙を送ろう （国語科との関連）</p>	<p>○児童が担当している各コーナーで園児と児童と一緒に遊び、かかわりを深めていけるようにする。</p> <p>○事前に、活動のねらいや内容などについて職員間で打合せを行う。</p>
<p>『みんな待ってるよ』（生活）</p> <p>1 一日体験入学と一緒に遊ぼう （3学期）</p>	<p>○園児にも取り組みやすいように、助け合いながら製作活動を行う。</p>	

		○園児と児童のかかわりを深める声かけをし、園児が安心して参加できる環境をつくる。
2年生	<p>『もうすぐ3年生!』(生活)</p> <p>1 わたしのかぞくをしらべよう。 資料:カード①、②</p> <p>2 自分にできる仕事にチャレンジしよう(12月~冬季休業中) 資料:カード③、④</p> <p>3 幼稚園・保育所等との交流の計画を立てよう。(1月~)</p> <p>4 学習したことを幼稚園・保育所等のみんなに発表しよう(1月~)</p>	<p>○家の内外の仕事や自分を育ててくれている家族のことを聞き取らせる。</p> <p>○自分が大切な存在であることに気付かせる。</p> <p>○各家庭に交流の内容を知らせる。</p> <p>○園児と児童と一緒に仕事に取り組むことができる時間を設定する。</p>



(仕事のコツを教えている児童)

5 準備

- あさがお栽培、花を使った遊びに必要なもの、学習シート
- 園児への手紙、ビデオレター
- プールでコース別の遊び場に必要なもの(すべり台、リング、ビート板)
- 秋のフェスティバルのコーナー紹介の掲示物、各コーナーの準備物

6 展開例

ねらい

- 身のまわりの自然物を使った遊びを通して、園の子どもと触れ合い、相手のことを理解した接し方ができる。
- ◆交流を通して感じた気持ちを、相手に伝えることができる。

〈技能的側面〉

学習活動	○指導者の支援及び留意点 ◇評価	備考
1 はじめの会を行う。 ・先生の話聞く。 ・体ほぐしや心ほぐしをする。 ・コーナーの紹介をする。	○各コーナーで協力しながら、コーナーを整えたり、準備物を確認したりしておく。 ○あいさつを含めた出会いを大切に、誰と一緒に活動するのか知らせる。 ○違った環境に不安を感じないように、児童と園児と一緒に体を動かし緊張をほぐす。	コーナー案内図
名前を呼び、たくさんの人に話しかけ、やさしく遊び方を教えましょう。		
2 園児を各コーナーに案内し、一緒に遊ぶ。	○園児が楽しんで参加できるように、幼稚園へ事前に内容等を伝える。 ○全員が遊びの役割を分担することで、児童の意欲を引き出す。年間を通してペアで活動を行うことで、子ども同士のつながりを深める。 ◇楽しく遊べるように園児と相談しながら遊びを進めることができる。	コーナーの準備物
3 終わりの会を行う。 ・感想を発表する。 ・先生の話聞く。 ・後片付けをする。	○園児とかかわりをもつことで、成長の自覚と喜びを感じさせる。 ◇交流して楽しかった気持ちを自分なりに伝えることができる。 ○気持ちのよいあいさつができるように、声かけを行う。 ○児童と園児の心を通い合わせていた会話や、児童が園児にやさしく遊び方を教えていた姿を紹介し、児童と園児とのつながりを認めていく。 ○後片付けを協力して行い、最後まで自分の仕事をやり遂げるようにする。	

7 資料

「あさがお交流」：あさがおこうりゅうカード



「もうすぐ3年生!」：わたしのかぞくをしらべよう

カード① わたしのかぞくインタビューカード(1)

わたしのかぞく インタビューカード	2年 くみ ()
ききたいこと① ()	()
.....	
.....	
.....	
ききたいこと② ()	()
.....	
.....	
.....	
わたしがいえでがんばっていることは、	
<div style="border: 1px solid black; height: 40px; width: 100%;"></div>	

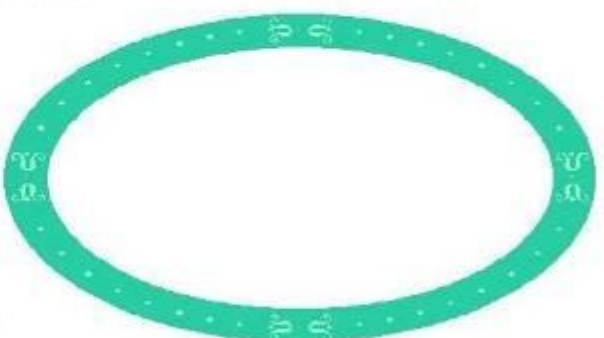
カード② わたしのかぞくインタビューカード(2)

2年 くみ ()

しごとの名前

くふう・気をつけていること

しごとをしたあとの気持ち



しごとをしたあとの かんそう

チャレンジしたいしごと 1

チャレンジしたいしごと 2

チャレンジしたいしごと 3

「もうすぐ3年生!」: 自分にできる仕事にチャレンジしよう

カード③ しごとチャレンジカード

しごとにチャレンジしよう

2年 くみ ()

しごとの名前

くふう・気をつけること

しごとをしたあとの かんそう

しごとの名前

くふう・気をつけること

しごとをしたあとの かんそう

カード④ げん気がんばりカード

げん気がんばりカード

_____ねん _____くみ _____なまえ_____

家でがんばること	げつ	か	すい	もく	きん	ど	にち
 早おき 時							
 あさごはん たべたら							
 早ね 時							
 あいさつ できたら							
決めたじぶんのしごと							

☆ おうちでできるしごとがふえるといいね。
じぶんのことはじぶんでするようになりましょう。

チャレンジ！！

- ☆ いえの人にこえをかけてもらうまえにできたら.....◎
- いえの人にこえをかけてもらってできたら.....○
- できなかつたら.....△

〈おうちの人から〉上記についての家での様子を書いてください。

まちを元気にするために

事例6

自分たちにできることを考えよう

校種等 小学校

1 題材設定の理由

すべての地域社会には、地域ならではのよさがあり特色がある。同時に課題もある。「総合的な学習の時間」の学習活動の例示として新たに加えられた「地域の人々の暮らし、伝統や文化に関する学習活動」では、よりよい郷土の創造にかかわって生じる地域ならではの課題について、児童が自己の生き方とのかかわりで考え、よりよい解決に向けて地域社会で行動していくことが望まれている。

現在、地方においては高齢化や過疎化の傾向が見られ、地域住民の交流の場であった商店街からは、かつての活気がなくなりつつある。このような時代だからこそ子どもたちには、自分が生まれ育った地域を見つめ直す機会が必要だと考える。

そこで、児童が地域へ出かけ、地域の方々と出会い、地域づくりを考える探求的な学習を通して、自分が住んでいる地域のよさに気づき、地域への誇りと愛着を育むとともに、地域社会に積極的に働きかけようとする態度を養うために本題材を設定した。

2 題材のねらい

○地域の人びとの願いを受け止め、地域の活性化のために自分にできる方法を考え、協力して活動していこうとする態度を培う。

◆地域の活性化を図るための活動を通して、地域への愛着を深め、地域の一員として主体的に働きかけようとする意欲を高める。

〈価値的・態度的側面〉

3 実践上の留意点




○学習のねらいを保護者に伝え、児童からの聞き取りへの協力を依頼する。

○児童が、実際に地域へ出かけ、調査活動等を行い、地域の方々と触れ合う時間を設定する。

○発表会を設定することにより、地域づくりに参画するという活動の意義を理解させる。

4 学習の流れ

※ → 「展開例」で示した学習

学習内容	指導上の留意点
<p>(総合的な学習の時間)</p> <p>1 学習計画を立てる。</p> <p>2 商店街活性化へ向けて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題、活性化策等 <p>3 商店街マップをつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> *調査活動計画と調査活動 *商店街のユニバーサルデザイン調査 *まとめ活動 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○学習を行う意義を理解させる。 ○事前に保護者から商店街に関する聞き取りを行わせておく。 ○児童の視点からの自由な発想を大切に意欲をもたせる。 ○話し合いや調査活動について、十分な時間を確保する。 ○児童が自分たちの力で調査計画を作成できるよう支援する。 ○調査活動に際し、保護者や地域ボランティアとの連携を図るとともに、安全面にも考慮する。
<p>(家庭科)</p> <p>4 白玉料理コンテストを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> *アイデアを出し合う *調理を行う。 *審査員を招き、コンテストを行う。 	<div style="text-align: center;">  </div>
<p>(総合的な学習の時間)</p> <p>5 発表会へ向けて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> *アイデアを出し合う。 *発表会へ向けて準備を進める。 <p>6 保護者・地域の方々を招いて発表会を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○発表会を、地域づくりへの参画という視点で行うことで、児童の学習への意欲付けを図る。 ○学習をふり返り、地域のよさや地域とのつながり等を明確にする。

5 準備


- 保護者へ学習のねらいを伝えておき、協力を得られるようにしておく。
- 調査をするに当たって、商店街の方々との事前の打合せをしておく。
- ユニバーサルデザインの調査活動をするに当たって、専門家である地域振興局の方や商店街の方々等との事前打合せを行う。
- 保護者連絡プリント、商店街調査表、白玉料理計画表、デジタルカメラ

6 展開例

ねらい

○自分の住んでいる地域のすばらしさに気付き、活気を取り戻したいという地域の人々の願いを受け止め、地域活性化のために自分たちができることについて考える。

◆話し合い活動に意欲的に参加することを通して、地域の一員としての意識を高める。
〈価値的・態度的側面〉

主な学習活動	○指導者の支援及び留意点 ◇評価	備考
<p>1 自分の住んでいる地域のすばらしいところを確認し合う。</p> <p>2 学習のめあてをつかむ。</p>	<p>○自分の住んでいる地域は以前、人々がたくさん集まってお り、活気があった ことに気付かせる。</p> 	<p>人出の多い 昔の商店街 の夏祭りの 写真</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">昔の商店街の活気を取りもどそう!</div>		
<p>3 グループごとに話し合う。</p> <p>4 全体で出し合う。 〈アイデア例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商店街のシンボルをつくる。 ・誕生日サービスを行う。 ・宅配サービスを行う。 	<p>○アイデアを自由に考えさせる。</p> <p>○事前に保護者に聞き取りを行っておき、スムーズに考えが出せるようにする。</p> <p>○グループごとに発表し、意見交換することを通して、活性化策を明確にしていく。</p> <p>◇地域の人々の願いを受け止め、地域活性化のために自分にできる方法を考えていくことができる。</p> <p>○似たような考えをまとめ、クラス全体のアイデアとして整理する。</p> <p>○お互いの考えや発想のよさに気付かせる。</p>	<p>学習シート 付せん</p>
<p>5 アイデアの中から実行可能な案に絞る。 〈地域の願い〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若い人たちも住める町にしたい。 ・みんながお互いに助け合う町にしたい。 ・商店街を児童の視点で活性化してほしい。 <p>6 決定した案についての実施計画を考える。</p>	<p>○時間的、金銭的、物的に実現可能かという視点で絞り込むための話し合いを進める。</p> <p>○地域の方々の願いや、地域の人材や特産品などを活かす案という視点ももたせる。</p> <p>◇地域活性化へ向け、意欲的に話し合いに参加できる。</p> <p>○より活性化につながる案を考えさせるとともに、見通しをもって調査計画を立てさせる。</p>	

7 資料

資料①商店街各店調査の学習シート

商店街調査用紙

調べる店の名前		名前()
名前の由来	店の歴史	
売ってある物	店の特徴	
店のセールスポイント	その他(店の人の思いなど)	
ふり返りのポイント	評価(◎○△)	
話をよく聞き、メモを取ったか		
店の特徴をつかむことができたか		
班で協力して取材できたか		
安全に行き帰りができたか		

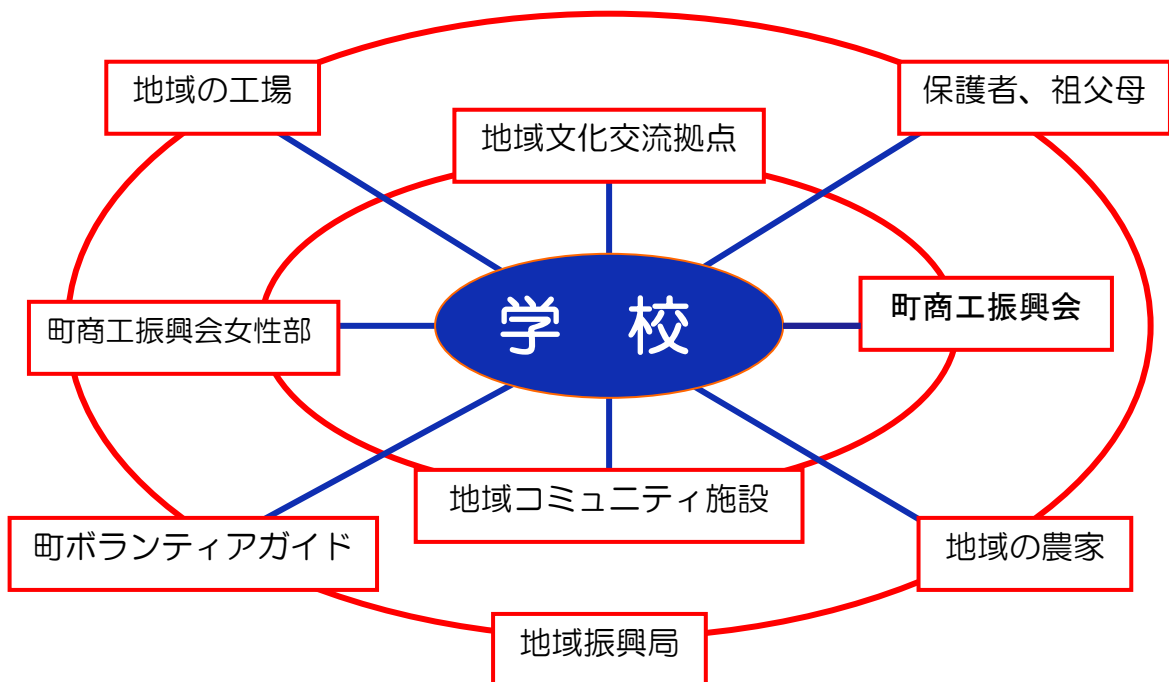
資料②白玉料理コンテストの学習シート

特産品「白玉」を使った白玉料理を考えよう！

グループ名	
名前	
料理名	
完成予想図！	
材 料	作 り 方
料理のおすすめポイント！	

資料③ 商店街学習における地域との連携図

「商店街学習」での連携図



内円・・・常時学習活動にかかわっていただく施設
 外円・・・必要に応じてかかわっていただく施設

資料④ 「白玉粉」を使った白玉料理コンテストより



資料⑤ 学習を通じた児童の感想より

私たちは、商店街活性化へ向けて話し合い、商店街マップを作成すること、特産品の白玉粉を使った白玉料理コンテストを行い、白玉の宣伝もしてきました。

商店街マップの作成では、まずタウンウォッチングをし、みんなにやさしい施設や環境づくりを学びました。そして、各店を回って取材し、パソコンを使って商店街マップを完成させ、町の方々に配りました。

白玉料理コンテストでは、白玉粉の歴史や白玉粉を使った料理などについて調べ、白玉粉を使った料理を自分たちで考え、グループで作って、コンテストをしました。優勝した人たちの「三色白玉」を地域コミュニティ施設の落成記念式典で販売したこともとてもいい思い出です。

また、学習のまとめとして、大学生の皆さんと地域の皆さんの前で発表会をしました。とても緊張しましたが、自分たちの頑張ってきたことを発表できてよかったです。

今回の学習を通して、地域のすばらしいところをたくさん発見しました。この学習の中で、地域の皆さんに喜んでもらったり、ほめてもらったりしてとてもうれしかったです。これからも地域のことを深く学び、もっともっと好きになり、地域のためになることをしていきたいです。

資料⑥ 商店街振興会会長さんからの感想

A町商店街とB小学校の子どもたちとの触れ合いが始まったのは、数年前「地域コミュニティ施設」が商店街にオープンした時です。5年生の子どもたちが商店街マップを作成したり白玉団子の販売などをしてくれたりしました。

その「地域コミュニティ施設」を基点として「通学合宿*」が始まったり、初市に参加してもらったり、夏祭りの造り物大会にも出展してもらい、商店街や地域の皆さんとの交流が多くなってきて、イベントのたびに昔を思わせるような人出が見られるようになってきました。

もっともっと活気ある商店街、A町になるよう、子どもたちが今まで経験してきたことを、将来のA町の活力ある町づくりに頑張ってくれたらいいなあと思っています。

*通学合宿…地域の公共施設を利用した、児童の自立支援を目的とした宿泊をとまなう取組

「ストリートイベント」

○低学年

・チョークアート

初市の当日に商店街が歩行者天国になり、その一画に低学年の子どもたちがチョークで絵を描き、来場者の方々の目を楽しませるためのイベント。



・初市パレード

音楽の時間に練習した合奏をしながら商店街をパレードする。

○中学年

・物産館C

商店街の店のお勧めの一品や地域の特産品、農家から取り寄せた農産物等を販売。

○高学年

・D食堂

地場産物・地域の特産品を活かした、子どもたちが考案したランチメニューを地域の店で作っていただき、子どもたちが手伝い等を行う。

・全国うまいもん市

地元・E市・熊本県・全国の特産品について調べた後、全国の特産品を取り寄せ、販売会を行う。

「ステージ発表」

○1年

・B小大好き

B小での1年間や英会話の学習等の成果を発表。

○2年

・楽しかった町探検

生活科で町を探検し、見つけた町のよさや、商店街の各店の特徴などを発表。

○中学年

・物産館C紹介

ストリートイベントで行う内容の紹介及び商店街調べでわかった各店の特徴等の発表。

○5年

・環境ISO発表、ランチ紹介

環境ISO運動で学習した環境問題についての発表及びB食堂の紹介等。

○6年

・うまいもん市、ソーラン節

全国うまいもん市の紹介及び文化祭で発表したソーラン節の披露。



人生の先輩から生き方を学ぼう

事例7

校種等 中学校

1 題材設定の理由

近年、生徒の将来設計やキャリア形成のために体験的活動が多く取り入れられるようになった。体験的活動については、その取組を系統的に展開する、事前・事後指導を工夫するなどにより、単発的なものに終わらせることがないようにしなければならない。そして、学校における人権教育全体の中での意義を明確にしながら、その成果を効果的に活かしていくことが大切である。また、生徒一人一人が活躍できるように配慮し、達成感を味わわせ、自立心を養うような工夫が求められる。

本題材を取り組むに当たっては、まず「障がいの有無にかかわらず、地域で共に働き共に生きる」という理念をもって施設運営をしている施設長さんと生徒との交流を行っている。また、地元の社会福祉協議会やグループホーム等の福祉施設で働く方々の思いにも触れている。さらに、「福祉施設体験活動」として、施設の職員の方や入所者の方との交流を大切にしたい取組を行っている。

本題材の学習活動を通して生徒はいろいろな人と出会い、相手の方のこれまでの生き方や考え方などに触れることにより、人間の価値観の多様性を知り、他者理解へつなげるとともに、これからの自分自身の生き方（進路への展望）への手がかりを得ることが期待される。また、生徒にとって人権感覚を培う契機ともなる。さらに、あいさつや会話など、社会生活を送る上で根幹となるコミュニケーション能力を向上させることができると思う。

2 題材のねらい

- 福祉施設における体験活動に主体的に取り組み、相手の立場に立って行動する実践力を高めるとともに、様々な人々との交流を通して、自分の生き方についての考えを深めることができるようにする。
- ◆福祉施設の体験活動を通して、高齢者や障がい者の人権課題についての理解を深める。 〈知識的側面〉
- ◆様々な人々との交流を通して、他者の価値観を尊重し、相手の立場に立って行動していこうとする態度を育てる。 〈価値・態度的側面〉

3 実践上の留意点

- 自分の感情や意思を素直に表現しながら、訪問先の人々と楽しく交流し、共感し合う体験を通して、人とかかわることの楽しさや喜びなどを味わわせる。
- 訪問先となる施設等に予め学習活動の意義等を伝え協力を依頼するとともに、施設等の日程・行事に合わせた体験活動等の内容を計画する。
- 訪問先の人々の思いや願いを大切にし、施設内での人々の生活に配慮した学習計画とする。
- 児童生徒が希望する体験内容や訪問施設についての個別調査を行い、それらの結果をもとに班編成を行う。

4 学習の流れ

※ → 「展開例」で示した学習

学習内容	指導上の留意点
<p>(総合的な学習の時間)</p> <p>1 オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉体験の目的・意義 <p>2 講話</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師の体験談 ・福祉施設の職員の方の講話 ・施設長さんの講話 ・感想文の作成 <p>3 体験学習を前にした学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班の編成(1班:4~5人) <li style="background-color: #ccccff;">・目標設定 ・訪問施設についての事前学習 ・訪問施設への事前訪問(体験学習内容の確認等) <p>4 体験学習(各訪問施設)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入所者との交流 ・食事介助 ・入浴介助 ・施設の清掃 など 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習全体の流れをつかませる。 ○高齢者や障がい者の人権について、教師自身の体験談を話す。 ○福祉施設の職員の方には、福祉の現場の実情だけでなく、仕事に対する思いなどについても話していただく。 ○自分の体験や経験等と重ねた感想を書くようにさせ、書く時間を確保しておく。 ○事前に希望調査を行い、班編成を行う。 ○目標設定は個別に行うが、その際、この学習を通して自分自身がどのような力を身に付けたいのかを意識させ、より具体的な目標(行動目標)をもたせるようにする。 ○学校から訪問施設までの交通手段等の確認を行い、安全指導の徹底を図る。 ○体験内容については、訪問施設と事前に検討をしておく。その際、施設等の日程・行事及び施設内での人々の生活に配慮するとともに、施設の利用者や生徒にとって負担とならないように計画する。



5 事後（まとめ）学習

- 新聞の作成
- お礼状書き



- 体験活動での感想をもとに、一人一人に学習の成果を新聞としてまとめさせる。
- 作成した新聞は、文化祭で校内掲示し、訪問した施設にお礼状とともに送付する。

5 準備

ワークシート（冊子） … 学習全体を通して（感想用紙等を含む）
 施設のパンフレット 施設紹介用DVD パソコン プロジェクター
 … 福祉施設の職員の方の講話
 パソコン プロジェクタ テーブル
 … 施設長さんの講話
 新聞用原稿用紙 … 事後学習

6 展開例

ねらい

○講話（人生講話）の感想をもとに、福祉体験学習における個人の目標及び班の目標を立てることができる。

◆自分の考えだけでなく、他の人の考えも尊重することができる。

〈価値・態度的側面〉

主な学習活動	○指導者の支援及び留意点 ◇評価	備考
1 本時までの振り返り ・講話（教師自身の体験談や福祉施設の職員の方、施設長さんの講話）の感想を紹介する。 2 本時のめあてを知る。	○自分の経験や体験をもとに書かれている感想や、自分の在り方を考えた感想等を選んでおく。	生徒の感想
福祉体験学習において、特に自分が心がけることを決めよう！		

<p>3 個人目標を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉体験学習を通して自分自身が身に付けたい力を考える。 ・「身に付けたい力」を付けるために、体験学習中に心がけたいことを具体的な行動として考える。 <p>4 班の中で発表し合う。</p> <p>5 班の目標を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの個人目標を確認し合う。 <p>6 それぞれの班の目標を発表する。</p> <p>7 教師の話聞く。</p>	<p>○個別の対話により、生徒一人一人に、それぞれの課題を把握させる。</p> <p>○身に付けたい力（資質・能力）についての例を示し、具体的な行動を考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の立場に立って行動する。 ・相手が何を考えているか、自分の方から尋ねる。など <p>◇自分の現状や課題に対応した目標を立てることができる。</p> <p>○自分がなぜそのような力を身に付けたいと考えたのかについても説明する。</p> <p>○他の班員の意見を聞いて、自分にとって必要だと思うものがあれば、ワークシートに書き込ませる。</p> <p>○班員それぞれが考えた「身に付けたい力」をもとに、班全体としての目標を話し合う。</p> <p>○班の目標だけでなく、その中で出された意見も紹介させる。ただし、個人目標を主たる目標とする。</p> <p>○目標を達成するためには、具体的に行動することや段階を踏んで取り組まなければならないことなど、体験談を交えて話をする。</p>	<p>ワークシート（冊子）</p>
--	---	-------------------

2010年9月13日 発行

つばめ新聞

発行者

つばめ

DE 福祉体験

私は3日間つばめに福社体験に行きました。グループホームつばめは認知症の方が暮らしておられる施設で、私が行ったときには5人の方がおられました。それぞれに自分の部屋があり、「家」という感覚で暮らしてほしいという願いがこもっています。写真や

つばめは、認知症の方の施設なので、歩けたり、自分で食事をできたりするので、「できることは自分でやる」ということで、トイレを自分の部屋につくらないようなつくりになっています。話を聞いてなるほ

自分の使っていた小物などもちこむことができ、思い出がいっぱいです。何をやるにも、特に時間を決めずにゆつくりとすごしておられます。おじいちゃんおばあちゃんはとてもいそいそとおられ、年をまったく感じさせませんでした。シャキシャキと歩いておられ

どなあと思いました。「家」という感覚というのには本当にすばらしいなと思いました。

職員の方たちも時間を決めて次々といろいろやるのではなく、ゆつくりのんびりとした



初めて見たときはすごく驚きました。「施設」では、栄養士の方がパランスを考えた食事をつくられますが、つばめでは、「家」という感覚

住みよい環境を作っておられるなと思いました。温かい雰囲気の中でおじいちゃんおばあちゃん楽しく暮らしておられる職員の方たちは苦勞もあると思いますが、楽しいと言っておられた。いいなと思いました。

つばめはよいかとこころ

認知症って何だろう??

覚なのでつばめの方が3食作りおられます。つばめに行って、「家」という感覚だったのではかの施設とは違い、おじいちゃんおばあちゃん住みやすいだろうなと思いました。

認知症という言葉を知っていますか？・・・

私は、聞いたとき、記憶がなくなるとか、自分のことができないとかいうイメージをもちていました。

しかし、実際認知症は脳のある部分に生じた病変により、**てわかぬ**かが低下した状態です。なので

- ・身の回りのこと
- ・トイレ
- ・会話
- ・食事

など自分でできることばかりなんです。

おじいちゃんおばあちゃんのために昼食づくり

福社体験3日目。最後の日は、利用者の方に昼食を作りました。主食・主菜・副菜・パランスを考え、喜んでもらえるようなものを作りました。メニューは、**ご飯・さけのマヨネーズ・焼き・わかめスープ**。

後日には、利用者の方に昼食を作りました。主食・主菜・副菜・パランスを考え、喜んでもらえるようなものを作りました。メニューは、**ご飯・さけのマヨネーズ・焼き・わかめスープ**。



みて驚いたことばかりでした。認知症はまわりの人とのかわりやすくて大切で気持ちよくわが、てあげなければいけません。認知症は病気がんです。



ミニトマト、ブロッコリー、粉ふとろで、ちゃんとして2人でみんなの分を作るのはすごく大変でしたが、「おいしい」と言ってくれて、食べて下さり、笑顔を見せて下さったので、よかったなあとすごくうれしくなりました。

私3日間、つばめに行くと、つばめは認知症の方といっても1人の人間だからみんな違うからその人の気持ちを知ることが大切ということ。自分が笑顔で会話をしていると、お話しをしてくれます。それがすごく楽しかったです。福祉の仕事は大変なこともありますが、その分やりがいを感じていい仕事だなと思いました。

(施設長さんの講話の感想より)

障がい者の人は、一人では何もできないというイメージを持っていたけど、施設長さんと出会って、それが間違いだと知りました。また、これまでの私は、障がいのある人を見た目だけで判断してあまりよいイメージを持っていなかったの、思いこみや偏見だけで人を決めつけるようなことは、絶対にやめようと思いました。

(福祉体験学習を振り返ってみての感想より)

僕は、あまり人と話したり、かかわったりするのが得意ではありません。だから、今回の福祉体験学習は正直に言うと、あまり行きたくありませんでした。施設の職員の方に「おじいちゃん、おばあちゃんと話をしてね。」と言われて、入所者の方の隣にいざ座ってはみても、なかなか話をする事ができませんでした。たまたま大学生の人が来ていて、その人たちが入所者の方と積極的に会話をしていた、それがとても楽しそうでした。それを見て、僕も自分から話しかけてみました。すると、会話も弾み楽しくなりました。この体験を通して、僕は何事にも挑戦してみることが大切なのだと思いました。

○目標設定用ワークシート
＜福祉体験学習の目標を立てよう＞

福祉体験を通して身に付けたい力は？

そのために心がけることは？

班の目標

○事前打合せをしよう

施設名			
所在地		電話番号	
担当者のお名前			
体験学習当日の集合時間	〇〇月〇〇日 (〇) 時 分	〇〇月〇〇日 (〇) 時 分	〇〇月〇〇日 (〇) 時 分
準備物			
服装			
体験学習時間及びおもな内容			
〇〇月〇〇日 (〇)	〇〇月〇〇日 (〇)	〇〇月〇〇日 (〇)	
特に心がけておくこと			
その他			

○活動記録用ワークシート

活動の記録(○日目)

目標 (「身に付けたい力」を習得するために、今日の目標を立てよう。)

--

活動内容(できるだけ時間帯で書く)

午前	午後
----	----

人生の先輩から学んだこと

学んだ人	さん()
学んだこと	

感想

--

自己評価 (よくできた◎ できた○ もう少し△ できなかった×)

- ①今日の目標は達成できましたか? ()
- ②人生の先輩から学ぶために接し方や話し方など、コミュニケーションをとる工夫をしましたか? ()
- ③()を身に付けるために意識して活動しましたか? ()
どんなことを意識しましたか? ()
- ④今日の活動の中で、学校生活で学んだことが活かされましたか?
授業(国 社 数 理 英 音 美 技家 保体 道徳 学活 総合)
内容()

○振り返り用ワークシート

体験から学んだことを振り返ろう！

1 目標は達成できましたか？

よくできた

できた

もう少し

できなかった

理由

--

2 思い描いていた体験後の姿には近づけましたか？

近づけた

だいたい近づけた

もう少し

近づけなかった

理由

--

3 自分が成長した部分を書いてみよう。

--

4 自分がまだ足りない、もう少し伸ばしたい、という部分を書いてみよう。

--

5 体験前の気持ちと体験後の今の気持ちを比べてみよう。

体験前	
体験後	